

北陸心理学会第 51 回大会
大会プログラム・発表論文集

2016 年 12 月 3 日(土)

富山大学人間発達科学部 341 番講義室

北陸心理学会第 51 回大会準備委員会

〒930-8555 富山市五福 3190

富山大学人間発達科学部

委員長 小林 真

委員 佐藤 徳

委員 若山 育代

委員 小川 亮

代表連絡先: 電話 (076)445-6358 (小林)

FAX (076)445-3658

kobamako202@gmail.com

会場案内

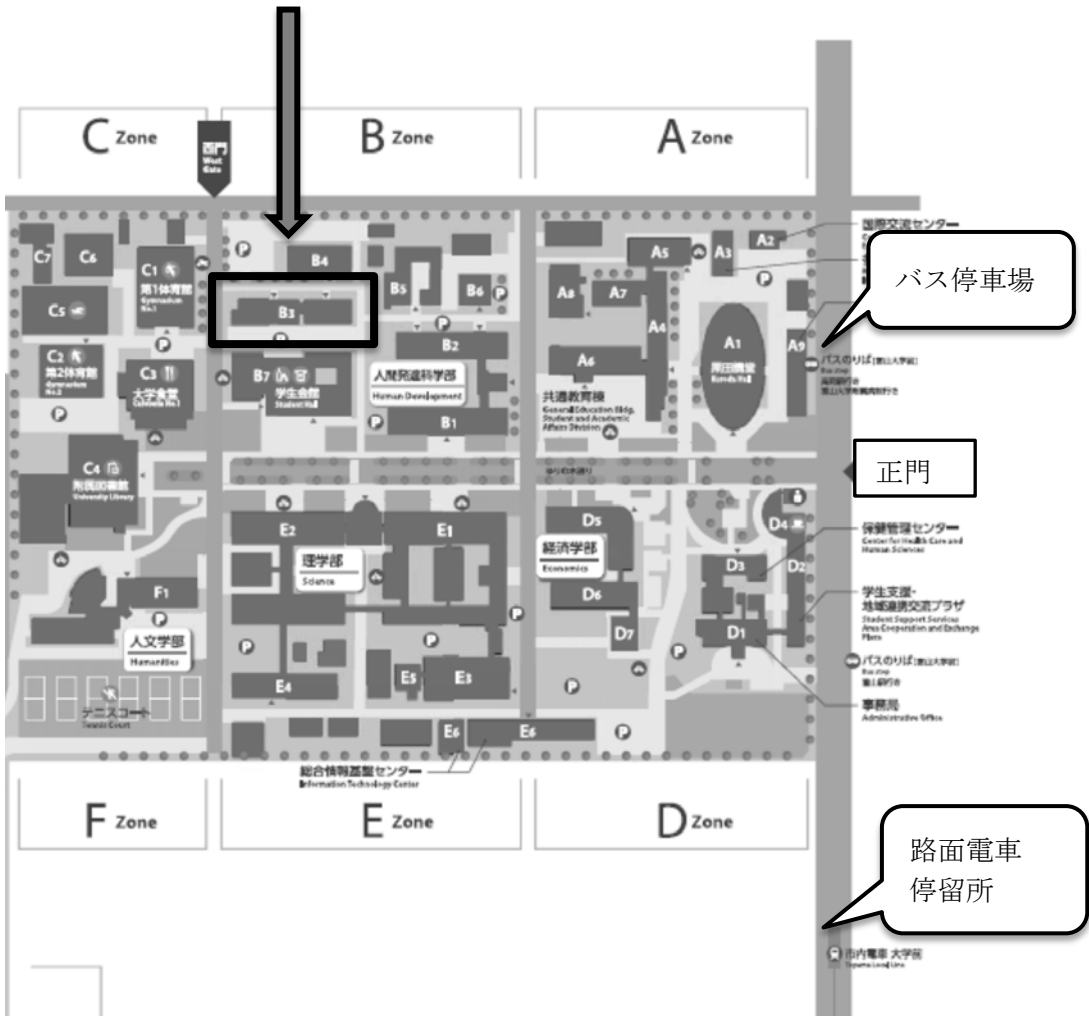
発表・講演：富山大学人間発達科学部 341番講義室（第3校舎4階）

総会： ” 332番講義室（第3校舎3階）

〒930-8555 富山県富山市五福3190番地 電話：076-445-6358(小林研究室)

(当日連絡先：kobamako202@gmail.com)

会場 第3校舎（4階／3階）



(富山大学ホームページより)

至 富山駅

交通アクセス

自動車の場合

北陸自動車道 富山西 I C より約20分

JR・あいの風とやま鉄道 富山駅正面口

バスの場合

3番のりばより 「新高岡駅」「小杉駅前」「新港東口」「新湊車庫前」

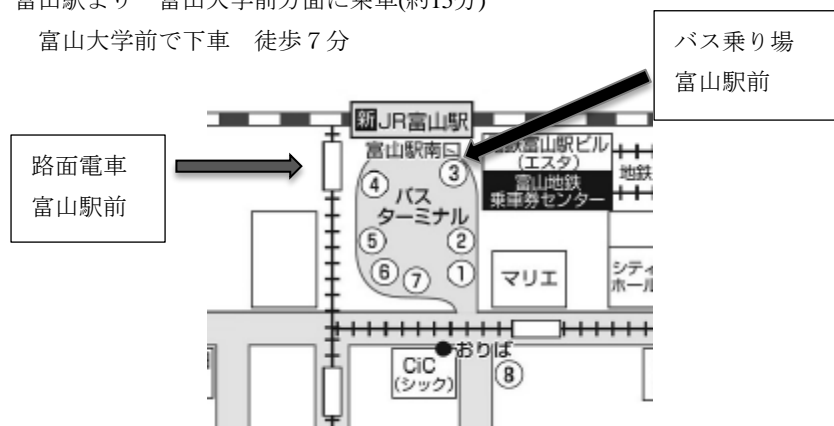
「富大附属病院循環」「北代循環」のいずれでも可(約15分)

富山大学前で下車 徒歩4分

路面電車の場合

富山駅より 富山大学前方面に乗車(約15分)

富山大学前で下車 徒歩7分



大会スケジュール

- 受付 9:00 ～
- 研究発表 9:30 ～ 12:40
- 昼休み（理事会）：総会会場で軽食を用意します 12:40 ～ 13:30
- 総会（懇親会を兼ねて軽食をとりながら行います） 13:30 ～ 14:10
- 公開講演会 14:20 ～ 16:20

大会参加費

非会員の方については、心理学および関連領域の教育・研究・業務に携わる方、学生・大学院生にご参加いただけます。当日、受付にて非会員として大会参加費をお支払い下さい。できるだけお釣りの出ないようにご協力をお願いいたします。本大会では昼休みに軽食を用意いたします。参加費には軽食代金が含まれています。アレルギー等の特別な対応が必要な場合には各自でご準備ください。

正 会 員	1,000 円
非 会 員（一般）	1,500 円
非 会 員（学部学生・大学院生）	1,000 円

研究発表者へのご案内

1. 発表時間

発表1件につき、発表時間12分、質疑応答3分とします。時間経過は、ベルにて合図いたします（1鈴：10分、2鈴：12分、3鈴：15分）。発表時間を厳守してください（発表・質疑が途中で3鈴で打ち切っていただきます）。なお、研究発表は、発表論文集への論文掲載、口頭発表、質疑応答をすべて行うことにより、発表として認められます。新入会員の発表者については、本年度会費が未納となった場合には発表が取り消されますので、ご注意ください。

2. 発表機器について

当日、会場に用意するノートパソコンには、Windows 10/PowerPoint 2016がインストールされています。原則として会場に設置されたパソコンをご使用ください。Macintoshや他の機器を利用される場合には、接続コネクタ等を含め、発表者自身でご用意いただき、事前の接続確認と発表者交替時の速やかな接続をお願いいたします。

3. 発表データについて

発表データはPowerPointにて作成し、USBメモリに保存してご持参下さい(USB3.0対応)。

4. 当日のデータ受付時間

9:00～9:20のデータ受付対応時間を設定し、発表会場に用意するノートパソコンへ発表データをコピーしていただきます。発表者は必ず対応時間内に会場へお越しください。持参した機器の接続確認もこの時間をお願いいたします。

発表賞

北陸心理学会では大学院生の研究発表を奨励する観点から発表賞の表彰を行っています。

1. 対象者

以下の要件をすべて満たす責任発表者の方が審査の対象となります。

- a) 常勤の職（任期制含む）に就いていないこと（年齢不問）
- b) 北陸心理学会における過去の発表賞受賞が1回以下であること（受賞は計2回まで）

2. 審査方法

プレゼンテーション（発表の明瞭性、発表時間を厳守したか、質疑への応答）および研究内容（知見の斬新さや重要性、手続きや議論の妥当性）に基づいて総合的に評価します。審査員は、座長、北陸心理学会役員、および役員から当日指名された常勤研究者等が担当します。審査者が対象研究の共同発表者である場合には、当該発表の評価を行いません。

3. 結果発表

当日の総会において受賞者を発表します。受賞者には賞状を贈呈します。

研究発表

座長 小川 亮・谷内 通 341 番講義室 9:30~12:40

1. 同種他個体との群泳傾向を利用したキンギョの数弁別 谷内通・崎尾佑希（金沢大学）
2. Enhancing Critical Thinking Skills Through Case Studies and Concept Maps in College Students
Nani Barorah Nasution and Tohru Taniuchi （Graduate School of Socio-Environmental Studies,
Kanazawa University）
3. 高校生の学習方法と学習習慣の検討（2）— 教師の指導する学習方法・習慣との関係
— 小川 亮（富山大学人間発達科学部）
4. 大学生の対人場面における性役割行動—性差観との関連から— 篠原絵梨（石川県中央
児童相談所）
5. 日本の防衛的悲観主義者は失敗と成功のどちらも熟考するのか 荒木友希子¹・曾澤菜月²
（¹ 金沢大学人間科学系・² 金沢大学人文学類）

—休憩—

発表賞対象研究（10：55～）

6. 視線入力機器使用時の瞬目活動の測定 岩丸良広（金沢大学大学院人間社会環境研究
科）
7. 日本語のコロケーションの心的処理について—近赤外分光法（NIRS）による探索的実験
研究— 趙立翠・安永大地・小島治幸（金沢大学人間社会環境研究科）
8. ラットにおける餌溶液摂取事態での予期的対比効果の不在 西川未来汰・谷内通（金沢
大学人間社会環境研究科）
9. ラットの指示忘却における忘却手がかりの提示は記憶資源の再配分を促すか？ 田中千
晶・谷内通（金沢大学人間社会環境研究科）
10. Broad autism phenotypeが高い大学生の友人関係困難尺度作成と学校適応感との検討 清水
麻衣（金沢大学大学院人間社会環境研究科）
11. リウマチ患者のストレス調整に関する調査研究 手塚朋子（富山大学大学院人間発達科
学研究科）
12. 抑うつ傾向とポジティブ感情の評価との関連 菅原大地¹²・杉江征³（¹筑波大学人間総合
科学研究科・²日本学術振興会・³筑波大学人間系）

個人・集団間葛藤にかかわる人間の本性と可塑性

講 師：野村理朗（京都大学大学院教育学研究科准教授）

企画・司会：佐藤 徳（富山大学人間発達科学部教授）

個人・集団間葛藤の予防・緩和にかかわる急所はあるのだろうか。先だって小規模な集団ないし個人による“テロ”が生じたように、グローバル化した現在、国家対国家の紛争が主であった過去の集団間葛藤とは異なった様相をみせつつある。従来、国際関係学・法学、社会科学からの集団間葛藤を扱ったアプローチは多くあるものの、そうした枠組みに収まらない、あるいは十分に注視されてこなかった個人的側面が、個人・集団間葛藤の急所となりつつあると思われる。そこで今回は、負の感情にかかわる「制御の機構」「本性と可塑性」「環境（文化・自然環境）等」を取り上げつつ、心理学・神経科学・遺伝学を包括した人間科学の観点から、個人・集団間葛藤の予防・解決に向けた手がかりを示したい。

野村先生の研究業績（一部）

Hiraoka, D., Nomura, M. (2016) The Influence of cognitive load on empathy and intention in response to infant crying. *Scientific Reports*, 6, 28247.

Kajimura, S., Kochiyama, T., Nakai, R., Abe, N., Nomura, M. (2016) Causal relationship between effective connectivity within the default mode network and mind-wandering regulation and facilitation. *Neuroimage*, 133, 21-30.

Yanagisawa, K., Kashima E. S., Abe, N., Nomura, M. (2016) Self-esteem modulates amygdala-ventrolateral prefrontal cortex connectivity in response to mortality threats. *Journal of Experimental Psychology: General*, 145, 273-283.

Nakano, T., Kuriyama, C., Himichi T., Nomura, M. (2015) Association of a nicotinic receptor gene polymorphism with spontaneous eyeblink rates. *Scientific Reports*, 5, 8658.

Yanagisawa, K., Masui, K., Furutani, K., Nomura, M., Yoshida, H., Ura, M. (2012) Family socioeconomic status modulates the coping-related neural response of offspring. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 8, 617-622.

Nomura, M., Kusumi, T., Kaneko, M., Masui, T., Daiguji, M., Ueno, T., Koyama, T., Nomura, Y. (2006) Involvement of a polymorphism in the 5-HT2A receptor gene in impulsive behavior. *Psychopharmacology*, 187, 30-35.

Nomura, M., Ohira, H., Haneda, K., Iidaka, T., Sadato, N., Okada, T., Yonekura, Y. (2004) Functional association of the amygdala and ventral prefrontal cortex during cognitive evaluation of facial expressions primed by masked angry faces: An event related fMRI study. *Neuroimage*, 21, 352-363.